

彙 報

会 長 梅 田 博 之

平成7年度第1回常任委員会

日 時：平成7年4月17日（金）午後1時～5時半

場 所：東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所小会議室

出席者：梅田博之（会長），坂本比奈子（事務局長），荻野綱男，角田太作，林
徹，吉田和彦

オブザーバー：宮岡伯人（編集委員長），田村すす子（大会運営委員長），大野
仁美，副島昭夫（事務局長補佐）

議事と報告

- （1）平成6年度の決算報告・監査報告があった。
- （2）平成7年度予算案を審議し，具体案を作成した。
- （3）第110回大会（平成7年度春季大会）について，研究発表者などの詳細を決めた。
- （4）第111回大会（平成7年度秋季大会）は東北大学で10月14日（土）・15日（日）の両日に行うこととした。
- （5）その他
 - 〈ア〉 宮岡伯人編集委員長より『言語研究』の応募・採択状況について報告があった。
 - 〈イ〉 彙報の形式について論議がなされ，ページ数を押さえる方向で検討することを決定した。
 - 〈ウ〉 予稿集作成についてのアンケートを春季大会において実施することを決定した。
 - 〈エ〉 役員選挙方法検討小委員会をおくことを検討することにした。

平成7年度第1回委員会

日 時：平成7年6月10日（土）午前10時～午後12時15分

場 所：早稲田大学 7号館3階315 語学教育研究所 日本語会議室

出席者：梅田博之（会長），坂本比奈子（事務局長），阿部泰明，池上二良，井出祥子，上野善道，大津由紀雄，荻野綱男，奥津敬一郎，尾上圭介，笥 寿雄，菊地康人，国広哲弥，熊本 裕，小泉 保，坂本 勉，佐藤昭裕，真田信治，沢木幹栄，清水克正，城生佰太郎，庄垣内正弘，杉戸清樹，杉藤美代子，鈴木孝夫，田窪行則，田村すず子，土田 滋，角田太作，林 栄一，堀井令以知，松本克己，宮岡伯人，村崎恭子，藪 司郎，湯川恭敏，吉田和彦（以上37名）

委任状：24名

オブザーバー：柴谷方良（会計監査），大野仁美，副島昭夫（事務局長補佐）

議事と報告

議事に先立って大会運営委員長田村すず子氏より挨拶があった。

- (1) 会長から平成7年度第1回常任委員会について報告があった。
- (2) 平成6年度の決算報告があり，質疑のうえ了承された。（別表1参照）
これは，1995年4月5日，会計監査委員近藤達夫・柴谷方良両氏より適正であると認められたものである。
- (3) 平成7年度の子算を決定した。（別表2参照）
- (4) 第110回大会（平成7年度春季大会）について，発表応募者数が多く4会場になったこと，予稿集作成についてのアンケートを実施することが報告された。
- (5) 第111回大会（平成7年度秋季大会）については，東北大学で10月14日（土）・15日（日）の両日に行なわれることが決定された。大会運営委員長は平野日出征氏である。
- (6) その他
 - 〈ア〉 宮岡伯人編集委員長より『言語研究』の応募・採択状況について報告があった。
 - 〈イ〉 消滅の危機に瀕した言語・小委員会について，土田滋委員長のもとに

委員を確定し、次回委員会において報告することが決定された。また、今大会の公開リレー講演に先立ち、土田滋委員長が危機に瀕した言語の研究について報告することが了承された。

- 〈ウ〉 学術用語集（言語学）の出版について経過報告があった。
- 〈エ〉 日本学術会議語学文学研究連絡委員会について松本克己氏より報告があった。
- 〈オ〉 役員選挙方法の検討について、事務局長経験者よりなる検討小委員会を設置することとした。角田太作・近藤達夫・菊地康人三氏を委員とし、坂本比奈子氏が小委員会の世話役となった。

〔別表1〕 平成6年度 日本言語学会決算

自 平成6年4月 至 平成7年3月

(単位 円)

収 入		支 出	
科 目	金 額	科 目	金 額
B 会 費	12,108,237	1 刊 行 費	4,932,013
C 雑 誌 売 上	943,875	2 発 送 費	320,410
D 文 部 省 補 助 金	620,000	3 編 集 費	494,344
E 預 金 金 利	11,074	4 事 務 委 託 費	3,655,200
F 雑 収 入	120,970	5 大 会 関 係 費	742,202
		6 委 員 会 費	140,008
		7 常 任 委 員 会 費	180,286
		8 C I P L 負 担 金	100,000
		9 選 挙 関 係 費	0
		10 名 簿 作 成 費	0
		11 通 信 費	729,847
		12 事 務 局 費	154,362
		13 消 耗 品 費	31,246
		14 予 備 費	0
		15 前 年 度 分 謝 金	630,000
		16 三 省 堂 書 店 への 支 払	534,600
		17 雑 費	409,171
収 入 合 計	13,804,156	支 出 合 計	13,053,689
A 前 期 繰 越	2,915,532	次 期 繰 越	3,665,999
計	16,719,688	計	16,719,688

◇収入内訳

B 会費

国内個人会員会費	10,642,940	前受国内個人会員会費	221,222
国内団体会員会費	833,000	前受国内団体会員会費	21,000
国内維持会員会費	80,000	前受在外個人会員会費	59,500
国内賛助会員会費	30,000	—	—
在外個人会員会費	203,575	—	—
在外団体会員会費	17,000	—	—
小 計	11,806,515	小 計	301,722
合 計		合 計	12,108,237

H 雑収入

105号特殊活字・図版 投稿者負担分	78,100
105号抜刷増刷代	3,600
106号抜刷増刷代	9,270
大会出店料	30,000
合 計	120,970

*特殊活字・図版代は、106号より印刷の平版化によって軽減した

*学会会員名簿代は雑誌売上に含む

◇支出内訳

1. 刊行費

	106号 (186p.)	107号 (228p.)	計 (414p.)
印刷費 (校正料含む)	2,039,400	2,892,613	4,932,013

*割付・校正料は印刷費に含む

2. 発送費

「言語研究」刊行時の一斉発送料 (追加発送料は含まない)

4. 事務委託費 3,655,200

日本言語学会と中西印刷株式会社により交わされた事務委託内容の覚書に基づく業務の代金

*コピー代、電話料金等は事務委託費に含む

*大会プログラム版下作成料は予算には計上されていなかったもので事務委託費に含めた

5. 大会関係費

	第108回	第109回	計
プログラム印刷代	57,680	39,140	96,820
出欠葉書印刷費	29,355	29,355	58,710
大会費	346,672	240,000	586,672
計	433,707	308,495	742,202

17. 雑費

慶弔費、前事務局職員へお礼の品	73,913
封筒、振替用紙、外国請求書、入会申込書類等印刷費	298,288
前年度決算委員会費	9,240
科研費審査委員候補者選出会議費	5,887
学会事務センター残務処理費用	21,843

計 409,171

〔別表2〕 平成7年度 日本言語学会予算

自 平成7年4月 至 平成8年3月

(単位 円)

収 入		支 出	
科 目	金 額	科 目	金 額
B 会 費	11,900,000	1 刊 行 費	5,665,000
C 雜 誌 売 上	900,000	2 発 送 費	330,000
D 文 部 省 補 助 金	620,000	3 編 集 費	800,000
E 預 金 金 利	10,000	4 事 務 委 託 費	3,502,000
F 雜 収 入	30,000	5 大 会 関 係 費	1,250,000
		6 委 員 会 費	200,000
		7 常 任 委 員 会 費	300,000
		8 C I P L 負 担 金	100,000
		9 選 挙 関 係 費 積立金	1,000,000
		10 名 簿 作 成 費 積立金	1,000,000
		11 通 信 費	500,000
		12 事 務 局 費	400,000
		13 消 耗 品 費	300,000
収 入 合 計	13,460,000	14 予 備 費	1,400,000
A 前 期 繰 越	3,665,999	15 雜 費	378,999
計	17,125,999	計	17,125,999

第110回大会

期 日 1995年6月10日(土)～11日(日)

会 場 早稲田大学

第1日(6月10日)

講演会 午後1時30分～5時30分

開会の辞

開催校挨拶

公開リレー講演 テーマ 「少数民族言語の研究」

- | | |
|--|--------|
| 消滅の危機に瀕した言語の研究(現状報告) | 土田 滋 |
| 危機に瀕した言語の研究者の課題 | 田村 すず子 |
| 中国・ロシアのツングース諸語 | 津曲 敏郎 |
| オーストラリア原住民語の現地調査 | 角田 太作 |
| 祖語(proto-language)の再構成や祖土(home land)および
移住(migration)経路の推定に必要な少数民族言語の資料 | 清水 紀佳 |

会員懇親会 午後6時～8時

第2日(6月11日)

研究発表 午前9時30分～12時20分

◦A 会場

- | | | |
|--------------|--|--------|
| (A 1) 9:30～ | 所有構文(A's B)に関する認知的考察 | 平見 勇雄 |
| (A 2) 10:00～ | ナラティブにおける語用論的な言語使用の
日英語比較 | 櫻井 千佳子 |
| (A 3) 10:50～ | 言語表現における「トートロジー」
—その有意味化と効果について— | 水田 洋子 |
| (A 4) 11:20～ | CONSERV を反映した論理記号による自然
言語の論理解析 | 三田 薫 |
| (A 5) 11:50～ | Feature Checking on English Verbal Gerunds | 青島 幸子 |

◦B 会場

- | | | |
|--------------|---------------------|-------|
| (B 1) 9:30～ | 相談談話における説得行動 | 村上 恵 |
| (B 2) 10:00～ | 情報のなわ張り理論からみた日本語の対話 | 伊藤 丈志 |

構造：肯定応答文形式からの考察

- (B 3) 10:50~ 否定的なメッセージを伝える談話における 吉田 愛
話し手と聞き手のストラテジー：ウチ・ソ
トの視点から
- (B 4) 11:20~ 『やっぱり』の談話語用論的機能について 植田 栄子
- (B 5) 11:50~ 日本語の主観的助動詞表現 西川 真理子
—「てしまる」・「てくれる」・「やがる」
—について

◦C 会場

- (C 1) 9:30~ 再帰性に関する一考 権 勝 林
—日・韓ヴォイスを中心として—
- (C 2) 10:00~ 中国語の動詞連続と使役文・受動文について 沈 力
- (C 3) 10:50~ イテリメン語における文法的否定表示 小野 智香子
- (C 4) 11:20~ 現代ビルマ語の願望文の文末要素 澤 田 英 夫
—sei の機能について
- (C 5) 11:50~ 満州語文語における可能表現について 山 崎 雅 人

◦D 会場

- (D 1) 9:30~ 韓国語鼻子音の非鼻音化の条件 吉田 健 二
- (D 2) 10:00~ タイ語複音節語における Light syllables の 宇佐美 洋
声調中和—リズムとの関係
- (D 3) 10:50~ Harmonic Phonology：日本語の動詞形態を 田 端 敏 幸
考える
- (D 4) 11:20~ 音韻論の Default Rule の形式について 高 橋 幸 雄
- (D 5) 11:50~ 最適性理論と子音連続の音節化について 桑 本 裕 二
平野 日出征

研究発表 午後1時40分～4時30分

◦A 会場

- (A 6) 1:40~ 日英語場所表現の意味構造 川村 三喜男
—相対名詞の機能を中心に—

- (A 7) 2:10~ 日本語の主題索性の照合と句構造 三宅知宏
- (A 8) 3:00~ 係助詞「も」生成の認知的基盤について 森 貞
- (A 9) 3:30~ 現代日本語の名詞化構文の認知言語学的
分析 堀江 薫
- B 会場
- (B 6) 1:40~ 状況への指示と照応 緒方典裕
- (B 7) 2:10~ 英語における二つの「過去」表現
— 談話構成機能からみた現在完了形と単純
過去形— 山内真理
- (B 8) 3:00~ ユカギール語の否定法、命令法
(焦点表示の観点から) 長崎 郁
- (B 9) 3:30~ ブヌン語南部方言のいわゆる「焦点」に
ついて 野島本泰
- (B 10) 4:00~ 日本語文法における否定と焦点化 矢田部 修一
- C 会場
- (C 6) 1:40~ セデック語タロコ方言の助動詞 wada 月田尚美
- (C 7) 2:10~ ルーマニア語の se 動詞の意味と用法に
ついて (主語が無生物を表す場合) 磯村雨月
- (C 8) 3:00~ バスク語アスベイティア方言の動詞の単純
形について 吉田浩美
- (C 9) 3:30~ チベット語ラサ方言の確定的な判断を表
わす二つの動詞 'yin と ^ree と話し手の
領域意識 星 泉
- (C 10) 4:00~ Coordination and Clausal Structure of
Korean Yi, Eun-
Young
- D 会場
- (D 6) 1:40~ 日本語における子供の性別による言語行
動の習得についての一考察 仲田陽子
- (D 7) 2:10~ 音位転換現象への音声学的アプローチ 寺尾 康

- 幼児の発話を資料として— 村田 忠 男
- (D 8) 3:00～ わたり音共起制約と上古漢語の音変化 東ヶ崎 祐一
 について
- (D 9) 3:30～ 方言の消失と継承 伊豆山 敦子
 —沖縄本島北部・辺土名方言の音声的・音 大城 ゆかり
 韻的变化—
- (D 10) 4:00～ ツアナ語の動詞のアクセントについて 湯川 恭 敏

◇ 平成7年3月13日、本学会評議員三根谷徹氏が日本学士院賞・恩賜賞を受賞されました。本学会として、心よりお祝い申し上げます。

◇ 本学会評議員村山七郎氏は、平成7年5月13日肺炎のため死去されました。謹んで哀悼の意を表します。

◇ 平成7年度秋の叙勲において、本学会委員林 榮一氏が勲二等旭日重光賞を受賞されました。本学会として、心よりお祝い申し上げます。

◇ 本誌は、文部省平成7年度科学研究費補助金（研究成果公開促進費）の交付を得て刊行されたものである。